井上円了記念研究助成　研究所プロジェクト

【研究課題】アジア諸言語史資料の汎用性データベース開発と構築

研究代表者：三沢伸生

1．研究の背景

21世紀以降，日本をはじめ海外の大学・公的研究機関はそれぞれに研究のために収集・保管してきた様々な史資料（文献・文書・写真・映像そのほか）を死蔵するのではなく，出版・インターネット上のホームページなどを用いて，汎用性の高いデータベースを構築して，国内外の大学・研究機関の間でネットワークを形成して共同でさらなる研究の進展を図りつつ，同時に研究成果として広く一般に公開することが通例となってきている。

本研究は1959年創設以来50年以上の歴史を有する本学のアジア文化研究所がこれまでに様々なプロジェクト研究のために収集･分析してきた様々なアジア諸言語（中国語，ハングル，タイ語･ミャンマー語などの東南アジア諸言語，アラビア語・ペルシア語・トルコ語などのイスラーム世界の諸言語）史資料公開を目的とした汎用性の高いデータベースの在り方を研究・設計・開発して，構築を行い，国内外の大学・研究機関との連携を高めて，本学・本研究所の研究を活性化・さらなる推進をはかる基盤を整備していくことが本研究プロジェクトの背景である。

2．研究の目的

本研究プロジェクトは，長い歴史を有する本研究所が分析・収集してきた史資料を，汎用性の高い，すなわち国内外の大学・研究機関とさらなる共同研究の進展をはかりつつ，国際的なアジア研究を推進する基盤形成を第一の目的としている。

既存の多くの研究機関が実施しているように，データベースは単なる史資料の集積物ではなく，史資料の重要性を示すように工夫・設計し公開していかなくては意味がない。したがって長い歴史を有して多くの史資料を有している本研究所において，いかなる史資料を選択して，どのようなデータベースを構築すれば，より規模の大きい学術的な共同研究を喚起するものになるかを主眼に，研究員･客員研究員による共同研究で具体的なデータベースを設計し，必要に応じて中国人･韓国人･東南アジア諸国・イスラーム世界に関して国内内外の研究者を共同研究者と迎えて，補完的な史資料の分析・整理を行って，データベースの設計を行い，これを出版，CD-ROM・DVD を用いた資料集の作成，本学ホームページ上に展開している本研究所のホームページにおいて公開していくことを目的とする。

より具体的には研究期間内に，アジア研究の基幹たる中国語（漢籍）・ハングル語，さらに国内の大学・研究機関で事例がほとんどないミャンマー語・トルコ語の 4 言語の史資料に関して，国内外の学術的研究に寄与する汎用性の高いデータベースを構築・公開していくことを目的とする

日本における関連する研究においては，東京外国語大学が21世紀 COE プログラム採択による [史資料ハブ地域文化研究拠点」があげられる。同プロジェクトは東京外国語大学および東京外国語大

学アジア･アフリカ言語文化研究所が収集･保管してきた様々な史資料を公開してきた。本プロジェクトもこれと同じ目的を有するものであるが，当然ながら本学・本研究所と東京外国語大学の収集してきた史資料は重複するものはなく，お互いに連携し巨大な研究ネットワークの中で補完しあうものであって，国内および国際的な規模でさらなるアジア研究の進展に寄与するものとなりうる。そのなかで本研究プロジェクトの目指すアジア諸言語の史資料データベースはこうした学際的ネットワークの中に埋没することなく，むしろそのネットワークを構成する重要な拠点を構築するものと位置付けることができる。

3．研究組織

研究員：千葉正史・齋藤里美・松本誠一・三沢伸生
客員研究員：石井隆憲・竹内洋介
研究協力者：飯塚勝重（客員研究員）・中村祐也（院生研究員）・小林栄輝（院生研究員）
大室智人（客員研究員）・荻翔一（院生研究員）

分担役割
① 中国語（漢籍）班：千葉正史・齋藤里美・竹内洋介・飯塚勝重・小林栄輝・大室智人
② ハングル班：松本誠一・中村祐也・荻翔一
③ ミャンマー語班：石井隆憲
④ トルコ語班：三沢伸生

4．研究経過

構成する４つの班別の研究経過を踏まえながら，本プロジェクトの経過報告を以下のようにまとめる。

最終年度である平成30年度は，当初の予定通りに，初年度・中間年度に引き続いて，中心的事業として中国語（漢籍）においては『華陽国志』注釈プロジェクトで収集した膨大な量の中国民族学･民俗学史資料の整理を中心に進めてきてその総括を目指した。本研究所のリサーチペーパー叢書として初年度に刊行した『「華陽国志訳注稿」人名・地名・官職名索引／ Index upon proper names to “Annotations upon Hua Yang Kuo Chih in the Japanese transcription text”』に引き続き中間年度に刊行した『『華陽国志』の世界：巴，蜀，そして南方へのまなざし／ The Grand Design of “*Huayangguozhi*”：Perspectives for *Ba*, *Shu*, and south expansion』は，前著と同じく国内外において多大な賞賛を得て，本プロジェクトならびに本研究所ひいては本学の面目躍如となった。本年度は９月にシンポジウム『刻まれた記憶と記録～中国石刻史料データベースの構築・活用と可能性～』を開催したが，（本シンポジウムに関しては次項にその詳細を別記する）前年度のシンポジウム「『華陽国志』の世界～巴，蜀，そして南方へのまなざし～」以上に多くの発表者・参加者に御参画いただき，実り多いものとなり，年度末に向けて同じく論集として刊行予定である。また本シンポジウムの準備および事後の研究推進のため，研究所内において竹内客員研究員，研究協力者の飯塚勝重客員研究員らを中心に外部からの参加を募って月例研究会を組織・開催している。本シンポジウムおよび月例会の成果は年度末に上記の本研究所のリサーチペーパー叢書の１冊として刊行予定である。また併せて『華陽国志』のデータベースと並行して，これに準ずるデータベースとして，初年度に引き続き，竹内客員研究員を中心に宋代墓誌編年目録の構築している。

ハングル語史料に関しては，研究所所蔵のハングル語史料のデータベース化作業を進めて，文献索引を構築中である。松本研究員・荻院生研究員のもとで作業を進めて，本研究所所蔵のハングル

語書籍のデータベース化にかんして完成し，研究所のホームページのアーカイブに格納した。

ミャンマー語に関しては，研究所に所蔵されるスポーツとりわけミャンマーの伝統的スポーツ関係の史資料の電子化作業中である。本班は元・東洋大学専任教員で，現・日本体育大学教授の客員研究員である石井隆憲客員研究員を中心に推進しているが，石井客員研究員の本務校の多忙によりやや予定より遅れている。代わりに本年度に本研究所と井上円了記念博物館とが共催した特別展示「哲学館人物伝 能海寛―見果てぬチベット―」につきチベットおよび能海に関わる貴重な史資料の図録を本研究所のリサーチペーパー叢書として作成・刊行し，そのデータベース化をすすめることができた。

トルコ語に関して，昨年度に早稲田大学イスラーム地域研究機構（代表：桜井啓子・国際教養学部教授）より，問い合わせ・早稲田大学収蔵資料のデータベース製作への協力打診を受け，2017年９月30日・10月１日に早稲田大学で開催された，講演会「オスマン帝国の軍国の軍制改革・正当性・文書史料」，国際シンポジウム「近代オスマン帝国の軍事と教育」，史料展示「オスマン帝国と日本―首相府オスマン文書館所蔵史料から―」として一般公開したものを，2018年２月に本研究所のリサーチペーパー叢書として『*Osmanlı İmparatorluğu ve Japonya : T.C. Başbakanlık Osmanlı Arşivi'ndeki Belgelere göre iki ülke ilişkileri (Waseda Üniversitesi Sergisi* 2017*)* ／オスマン帝国と日本：トルコ共和国首相府オスマン文書館所蔵文書に基づく両国間関係（早稲田大学史料展示会2017年)』（トルコ語・日本語併記）として刊行し，国内外に寄贈し，大いに賞賛を得た。本年度は同じく早稲田大学イスラーム地域研究機構の協力要請により，同機構が構築した「大日本回教協会旧蔵写真資料データベース」の増補・改定に，本プロジェクトの進めるデータベースの作業と協働しながら協力した。本作業により，本研究所の所有する諸史資料のデータベースに大いに参考になり，複数研究機関の協働により相互のデータベースの充実化が可能性につき得るものが多かった。

さらに本プロジェクトにつき，トルコ共和国国立アンカラ大学アジア太平洋協働研究センターに関心を抱いていただき，2019年１月に来日した同センター長であるアリー・メルトハン・デュンダル（Ali Merthan DUNDAR）教授と本研究所の後藤武秀所長との間で両者の「研究所間協定」を締結した。本プロジェクトとしては望外な成果となり，今後は同センターと研究協力を進めて，本研究所のデータベースをさらに充実化させていく所存である。上記の作業により，当初予定の戦間期（1920 年代・1930 年代）のトルコ語新聞・雑誌史資料のうち，日刊新聞『ULUS（＝国家)』，『Cumhuriyet（＝共和国)』などに関して，電子化・データベース化作業が遅れがちになっているが，本プロジェクト終了まで作業を進め，次年度に持ち越す部分にかんしては，通常の研究所の研究活動として進めていく。

５．シンポジウム『刻まれた記憶と記録～中国石刻史料データベースの構築・活用と可能性～』

近年，中国史研究を行う上で必須の史料となっている石刻史料に関するデータベース構築が，国内外で積極的に進められている。当研究所においても，早い時期から高橋継男研究員（現客員研究員）によって「中國五代十國時期墓誌・墓碑綜合目録稿」等の成果が『研究年報』に公表，広く活用されるなど，データベース構築の一端を担ってきた。

本プロジェクトの中国語（漢籍）班では，本研究所の草創期から30年の歳月をかけて行われた，先秦～魏晋南北朝時代にかけての西南中国に関する史料,『華陽国志』訳注稿に関わるデータの整理・収集を行うとともに，もう一本の柱として，中国・五代十国時期につづく時代の墓誌データベース構築を目指し，竹内洋介・大室智人両客員研究員を中心に，『全宋文』に掲載される墓誌の編年目録を作成し，『研究年報』に初年度・中間年度の成果として発表してきた（「『全宋文』所掲宋代墓誌編年目録（一)・(二)」)。このような石刻史料の整理やデータベースの構築作業は今後も発展的

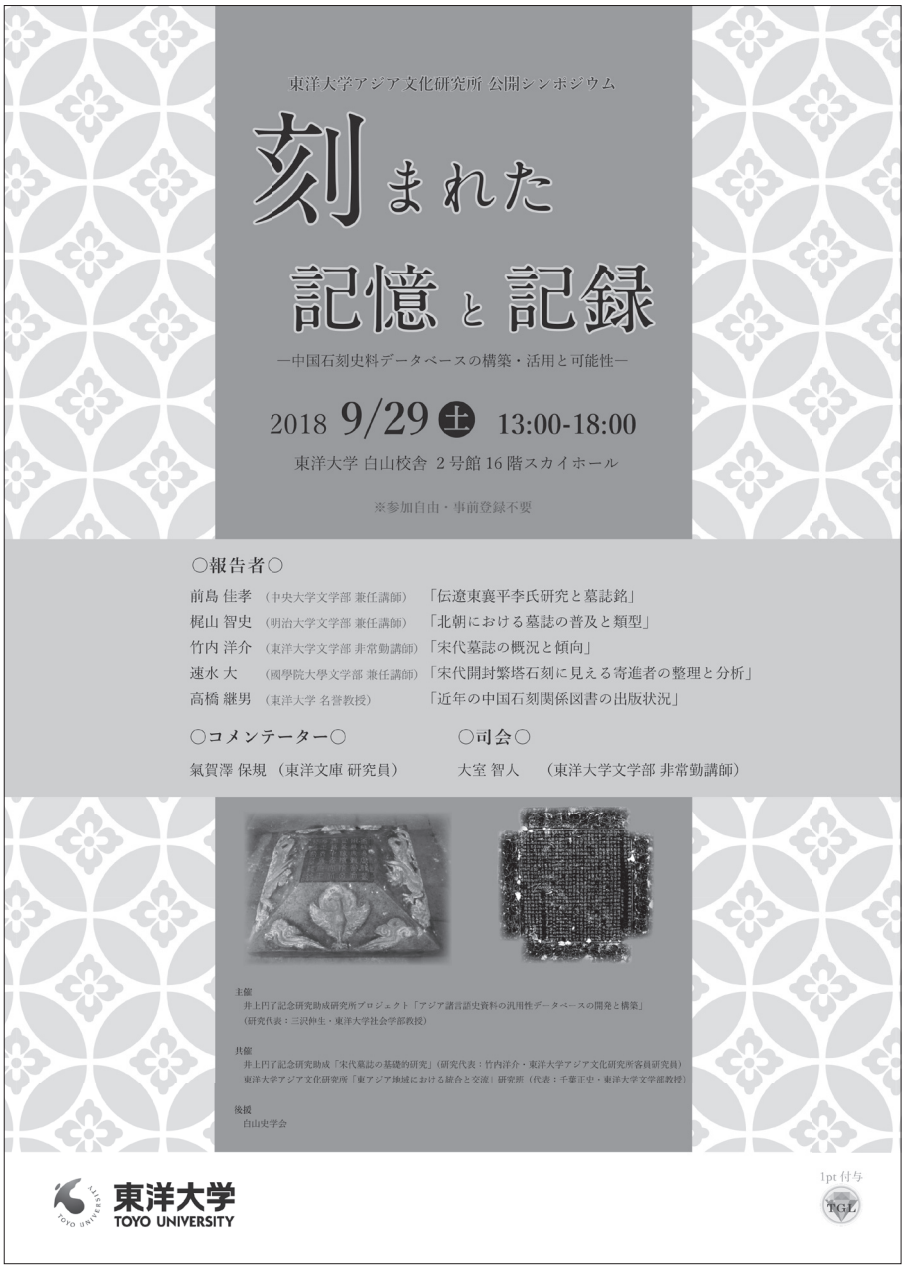
写真１　会場風景１

写真２　会場風景２

に継続していく必要があるものの，最近の中国では，現在も陸続と出土・発見され続ける石刻史料の「現物」を用いたデータベースの構築・公表が徐々に進展しつつある。そのため，現物史料を持たない日本において，どのような石刻史料データベースを構築し，如何に活用することができるのかという問題，あるいは，今後のデータベース利用の可能性について議論することは大変重要であり，本研究課題のテーマにも関わることから，2018年９月29日（土）に，「刻まれた記憶と記録―中国石刻史料データベースの構築・活用と可能性―」と題するシンポジウムを開催した。

詳細については，後掲のポスターを参照いただきたいが，当日は研究代表である三沢伸生研究員による開会挨拶の後，大室智人客員研究員がシンポジウムの趣旨説明を行った。続く報告では，前島佳孝先生（中央大学文学部兼任講師：「伝遼東襄平李氏研究と墓誌銘」）・梶山智史先生（明治大学文学部兼任講師：「北朝における墓誌の普及と類型」）・竹内洋介客員研究員（「宋代墓誌の概況と傾向」），速水大先生（國學院大學文学部兼任講師：「宋代開封繁塔石刻に見える寄進者の整理と分析」），高橋継男客員研究員（「近年の中国石刻関係図書の出版状況」）によるあわせて５本の研究報告（括弧内は肩書および報告タイトル）が発表された。また，この報告を受けて，氣賀澤保規先生（明治大学東アジア石刻文物研究所客員研究員・東洋文庫研究員）により研究報告の内容の総括と課題の提示，今後の石刻史料研究やデータベース構築に関わる方向性などについての詳細なコメントがなされた。続いて全体の質疑応答に移り，最後に千葉正史研究員より閉会の挨拶があり，今回のシンポジウムを終了した。

今回のシンポジウムでは日本で石刻史料を積極的に用い，最前線で中国魏晋南北朝時代～宋代史研究を進める若手の先生方と，これまで先駆的に墓誌史料データベースを構築され，これを利用した研究で新たな中国史像を描き続けておられる大家の先生方に報告・コメントをお願いしたことにより，最新かつ重厚な研究報告の並ぶシンポジウムとなった。準備の関係上，必ずしも広く開催を周知できたわけではなかったが，あいにくの天候の中，当日は遠方からの参加者を含め，40人もの参加が得られた。当日は十分な全体質疑の時間をとることが適わなかったという課題は残ったが，会の終了後の懇親会の場においても石刻史料に関する活発な意見交換がなされた。シンポジウムの内容に関しては，関係者の高い注目を集めており，今年度中に各報告者･コメンテーターから論文･コメントをご寄稿いただき ACRI Research Paper の１冊として報告書を刊行し，国内外の関係者･機関に送付する予定である。研究報告の詳細については，本書をご覧いただければ幸いである。


東洋大学アジア文化研究所 公開シンポジウム
刻まれた
記憶と記録
—中国石刻史料データベースの構築・活用と可能性—
2018 9/29 土 13:00-18:00
東洋大学 白山校舎 2号館 16階スカイホール
※参加自由・事前登録不要
○報告者○
前島 佳孝 （中央大学文学部 兼任講師） 「伝遼東襄平李氏研究と墓誌銘」
梶山 智史 （明治大学文学部 兼任講師） 「北朝における墓誌の普及と類型」
竹内 洋介 （東洋大学文学部 非常勤講師） 「宋代墓誌の概況と傾向」
速水 大 （國學院大學文学部 兼任講師） 「宋代開封繁塔石刻に見える寄進者の整理と分析」
高橋 継男 （東洋大学 名誉教授） 「近年の中国石刻関係図書の出版状況」
○コメンテーター○
氣賀澤 保規（東洋文庫 研究員）
○司会○
大室 智人 （東洋大学文学部 非常勤講師）
主催
井上円了記念研究助成研究所プロジェクト「アジア諸言語史資料の汎用性データベースの開発と構築」
（研究代表：三浦伸生・東洋大学社会学部教授）
共催
井上円了記念研究助成「宋代墓誌の基礎的研究」（研究代表：竹内洋介・東洋大学アジア文化研究所客員研究員）
東洋大学アジア文化研究所「東アジア地域における統合と交流」研究班（代表：千葉正史・東洋大学文学部教授）
後援
白山史学会
東洋大学
TOYO UNIVERSITY
1pt付与
TGL

シンポジウムポスター